

2013 年度 後期

## 授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科



# 授業改善アンケート調査結果

## 1. 授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケート調査を実施している。2010年度後期より実施方式を大幅に改訂し、全科目を対象に授業内でアンケート用紙を配布・回収する方式から、講義科目のみを対象に、学務情報システム KOAN を利用して Web 上で回答する方式に変更した。質問項目も刷新し、また英文を併記して留学生も回答しやすいようにした。実施期間は以下の通りである。

2013年度後期アンケート回答期間：平成26年1月21日～3月10日

対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳は、以下の通りである。受講登録者数に対する回収率は24.3%である（なお、受講登録者数は受講者数の実態が反映されたものではない）。

2013年度後期授業改善アンケート対象科目数・回答数

学部			大学院		
	対象科目数	回答数		対象科目数	回答数
基礎科目	1	108	共通科目	3	15
共通科目	4	5	先端人間科学科目	2	0
行動系科目	13	219	行動学系科目	10	20
社会系科目	10	112	社会学系科目	6	11
教育系科目	11	140	人間学系科目	3	11
グローバル系科目	7	24	教育学系科目	9	40
			グローバル人間学系科目	8	14
学部計	46	608	大学院計	41	111
計(大学院+学部)				87	719

回収率：24.3%

回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされ、個別の授業の改善に役立てられている。さらに、2010年度後期より、アンケート結果がより授業に反映されるよう、担当講師からアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの提出を求めている。

## 2. 授業改善アンケートの結果

ここでは、2013年度後期の授業改善アンケートの結果を示す。ただし、自由回答項目については除かれ、選択式の設問についてまとめている。

集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。「基礎」は豊中キャンパスで開講される「人間科学概論」等の基礎科目、「共通」は人間科学部での共通科目である。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。なお、各学系によって1科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。今回のアンケートでは、学部共通科目での回答者が非常に少ないことから、共通科目については偏りがあることにも留意する必要がある。

2013年度後期では、授業全体に対する評価についての問13「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」(5件法)の平均値が3.87であった(1~5の範囲で数値が高いほど高評価)。2012年度後期の平均値4.00を若干下回る結果となったことに注目されたい。

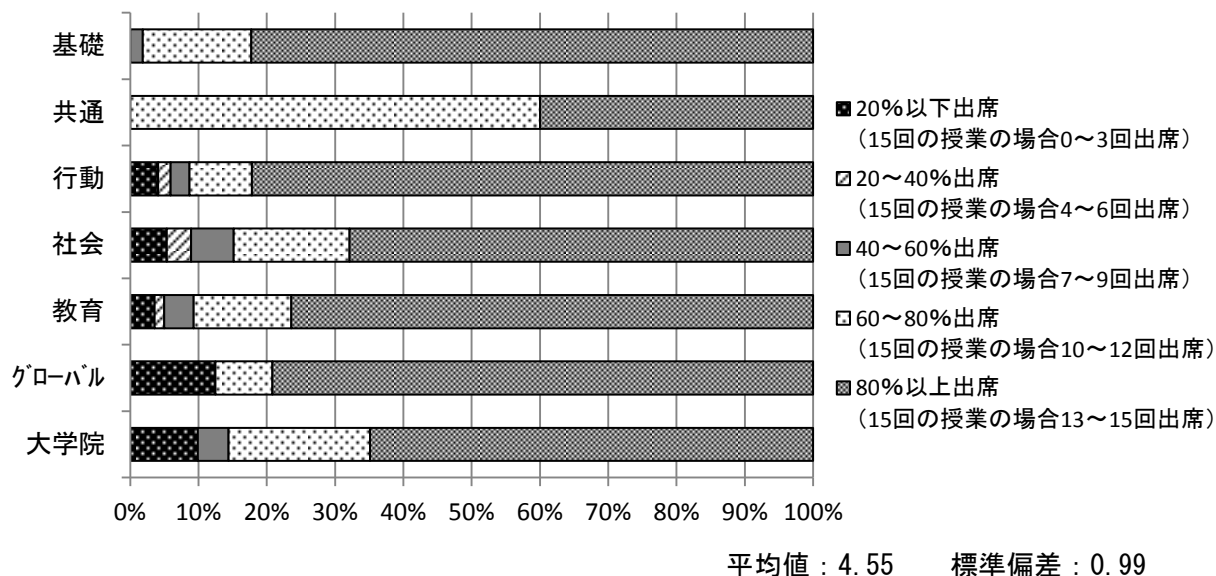
その他の設問についても、2013年度後期と2012年度後期の平均値を比較すると、問2と問4を除くほとんどの設問で、平均値が低下している傾向がみられた。具体的には、問1「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」は4.57から4.55へ、問3「授業内容は理解できましたか？」は3.79から3.77へ、問5「シラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？」は3.35から3.28へ、問6「授業はシラバスに沿って展開されましたか？」は3.46から3.43へ、問7「授業はあなたにそのトピックに対する関心を引き起こすものでしたか？」は3.97から3.81へ、問8「授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？」は3.97から3.88へ、問12「この授業はあなたの求めていたものにあっていましたか？」は3.93から3.84へと、下回る結果であった。

2013年度後期と2012年度後期の結果を比較したとき、改善の兆しがみられたのは問2と問4であった。問2「この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれくらいですか？」は1.58から1.71へと上昇しており、全体として学習時間が増えている傾向がみられた。2012年度末に人間科学研究科本館の耐震工事が終了し、改修に当たって学生の自主学習や研究活動促進のためにインターナショナル・カフェやリフレッシュルームなどのスペースが設けられた。このようなスペースの設置が、学生の学習時間の増加に寄与している可能性がある。また、問4「授業内容の難易度はどうでしたか？」(5件法で3が適切)は3.22から3.20へと若干変化し、授業内容の難易度は適切な度合いに近づいていることもうかがえた。

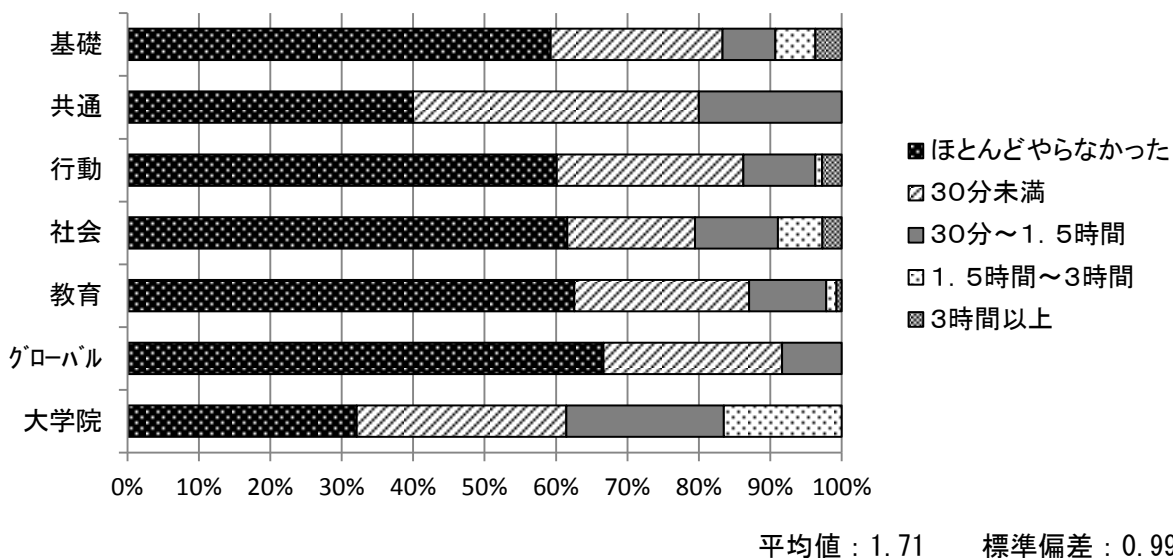
いずれにしても、回収率が今回の2013年度後期で24.3%(2012年度後期で25.5%)と決して高い数値ではないため、調査結果をどれだけ妥当なものとするかについては慎重な態度が必要である。今後は、より多くの学生の回答を回収できるアンケート方法を検討していくことが求められる。

次頁から、各設問の結果の詳細を記載する。

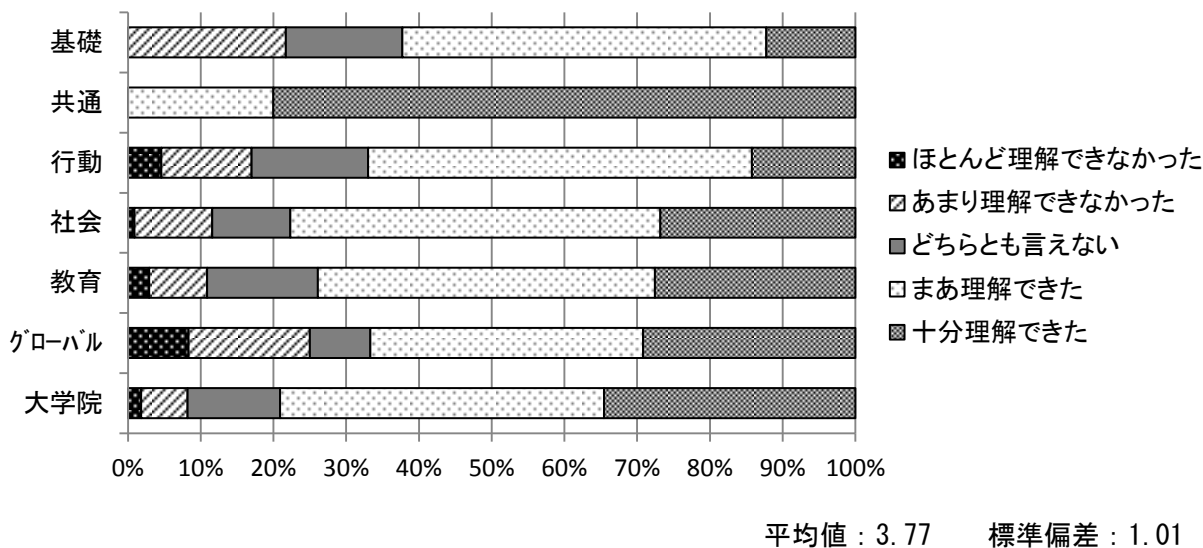
1：この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



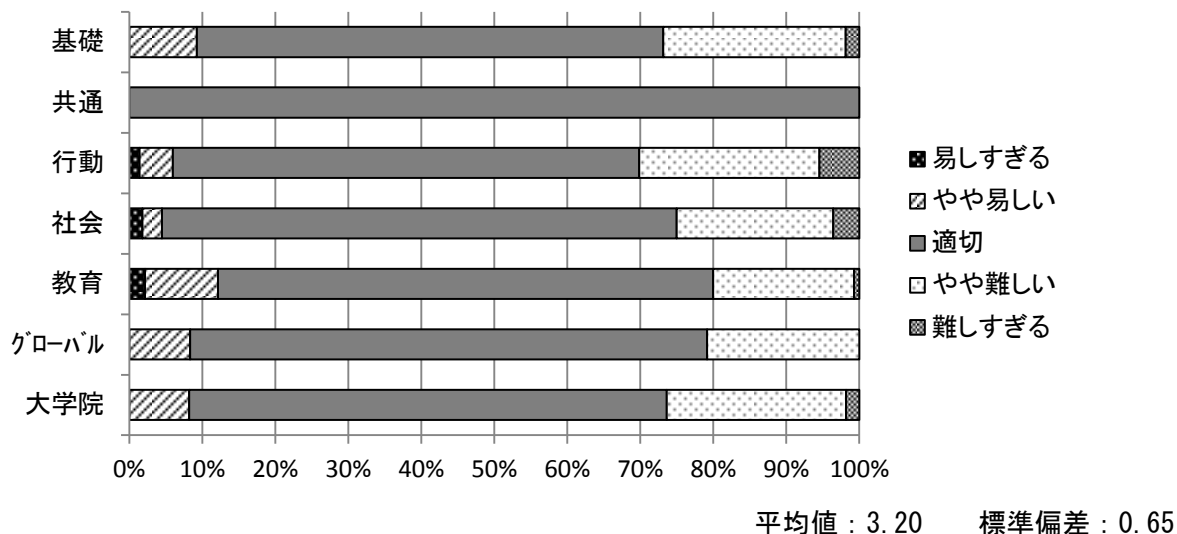
2：この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



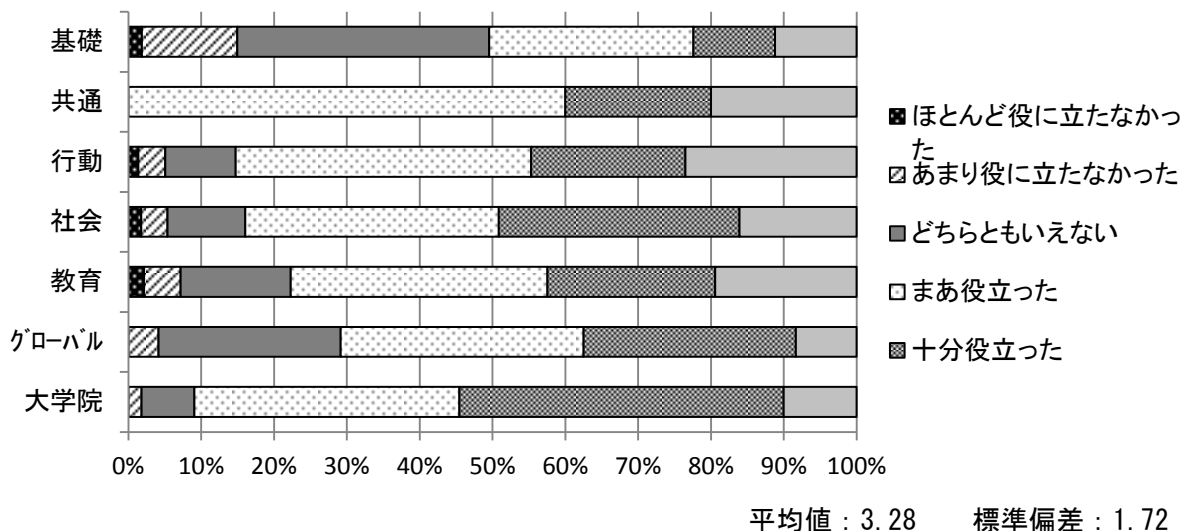
3：授業内容は理解できましたか？



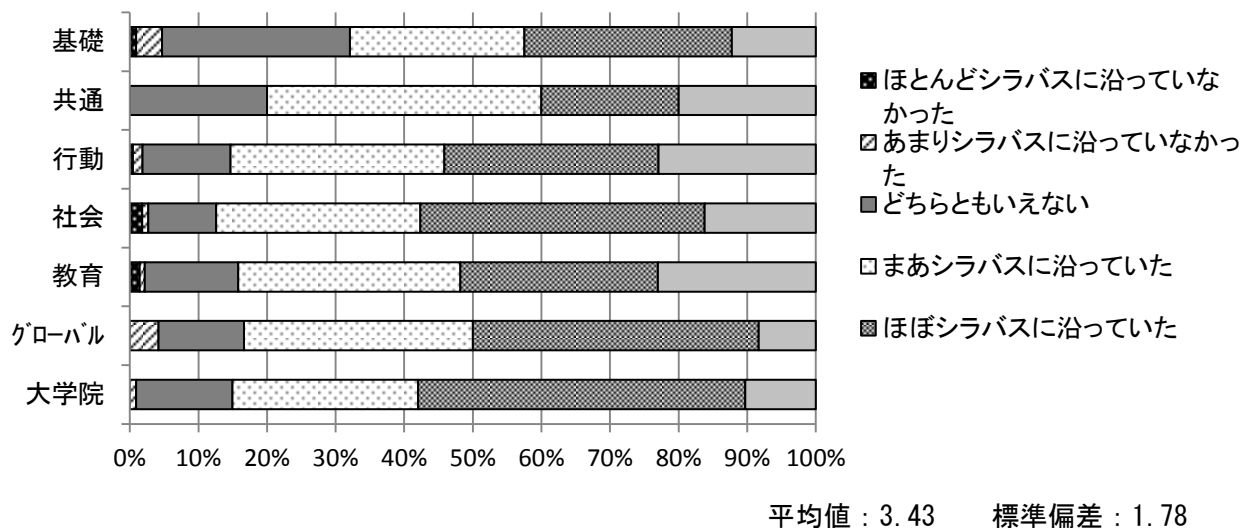
#### 4：授業内容の難易度はどうでしたか？



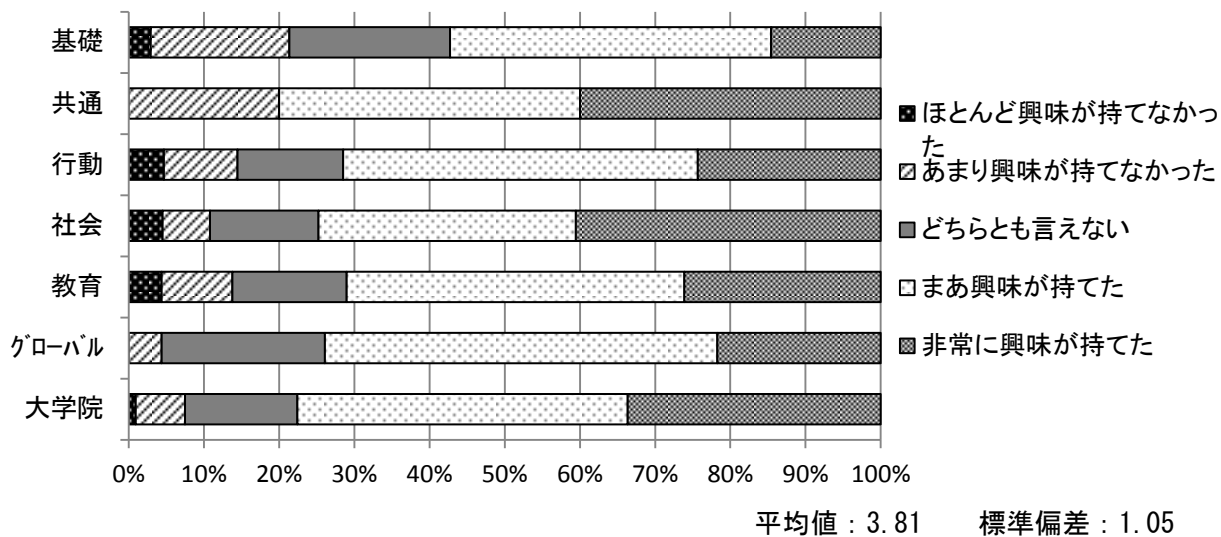
#### 5：シラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？



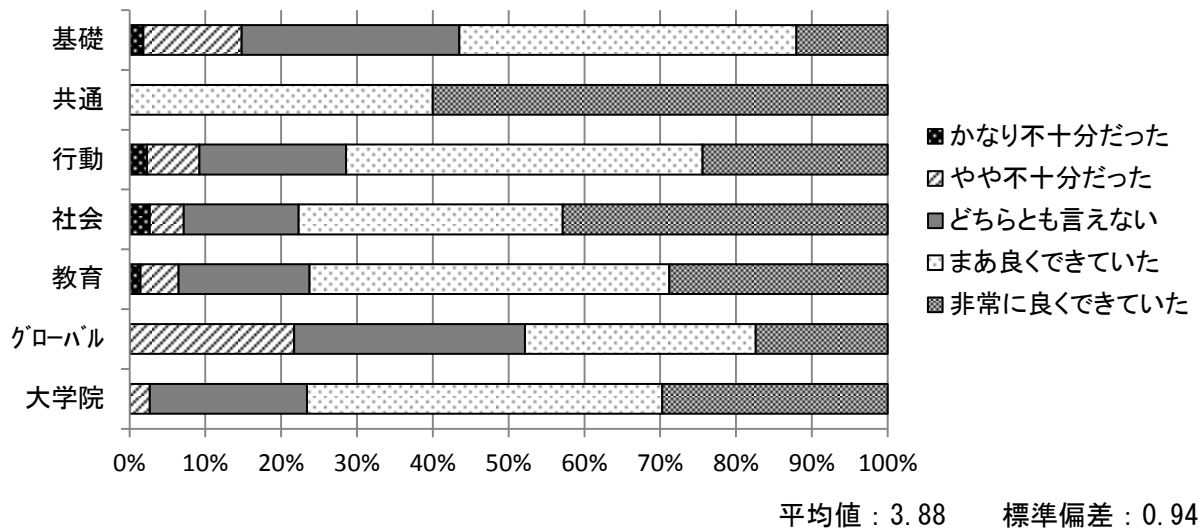
#### 6：授業はシラバスに沿って展開されましたか？



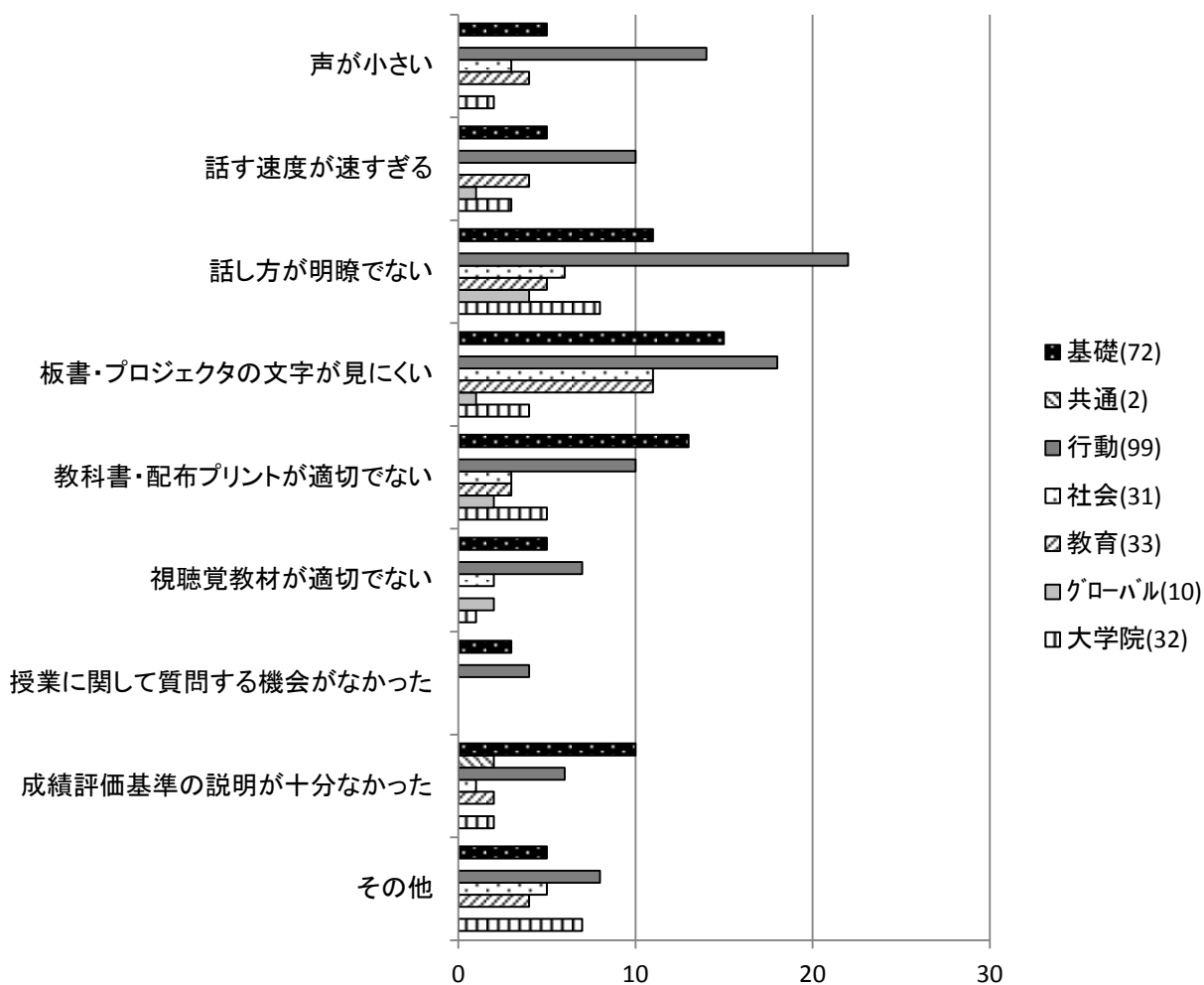
7: 授業はあなたにそのトピックに対する関心を引き起こすものでしたか？



8: 授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？

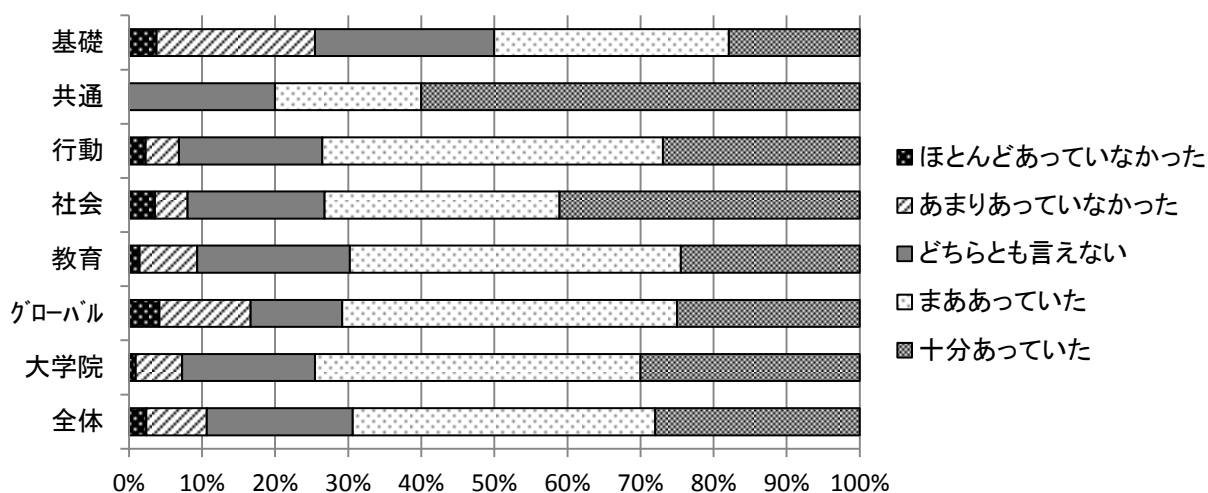


9：授業の進め方について、以下の点で気になったことがあれば、該当する項目にチェックを入れてください。[複数回答可] ※数値は回答数。( )内の数値は各カテゴリーの回答数。



全体の回答数=279

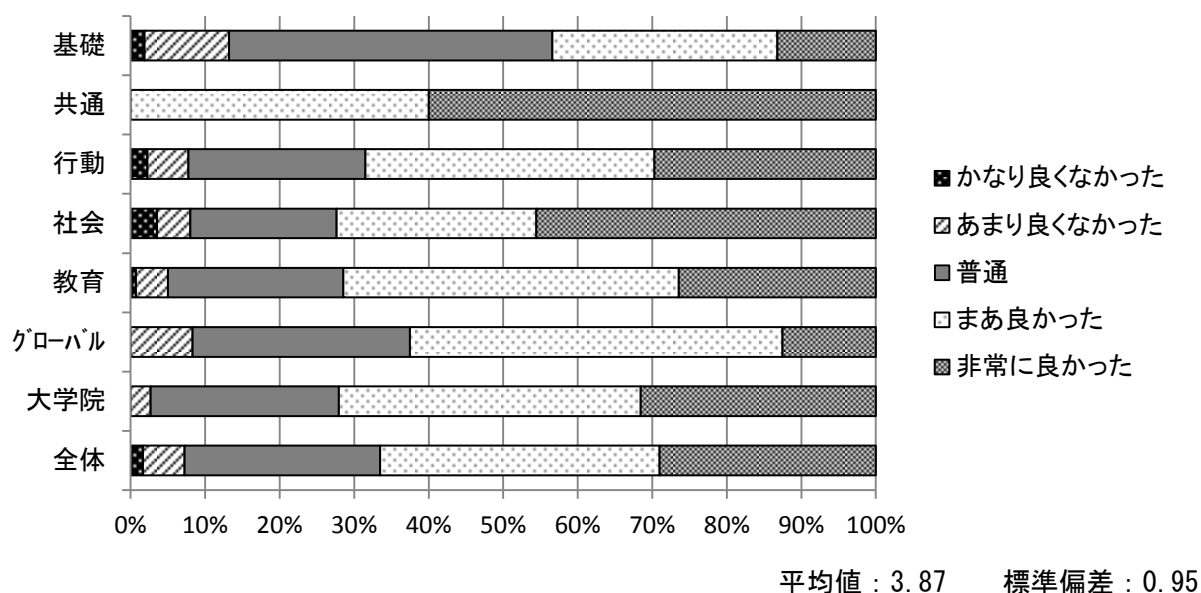
12：この授業はあなたの求めていたものにあっていましたか？



平均値：3.84 標準偏差：1.00



13：この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



問 13 より学部講義科目に関する満足度の結果を示す（回答者が 10 名以上の科目のみ）。大学院開講科目については回答数が少ないため全て対象から除外した。回答数とは問 13 に回答した人数を示し、平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味している。

2013 年度後期に開講された学部のアンケート対象科目 47 科目のうち、回答数が 10 以上の科目は 29 科目で、そのうち平均値が 4.0 以上の科目は以下の 14 科目であった。

2013 年度後期 学部講義科目 満足度の平均値が 4.0 以上の科目

	回答数	問 13 平均値
コミュニケーション社会学	26	4.69
基礎心理学	20	4.60
教育心理学 I	23	4.43
教育人間学 I	12	4.42
霊長類心理学	16	4.38
比較福祉論 I	10	4.20
行動生理学	11	4.18
人類学理論	18	4.17
臨床死生学・老年行動学	10	4.10
臨床心理学 I	20	4.10
適応認知行動学	22	4.09
リスク心理学	22	4.09
家族社会学	14	4.00
生物人類学	15	4.00

### 3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である（教員名の五十音順に掲載）。

<b>青野 正二</b>
<b>環境心理学・環境心理学特講Ⅰ</b>
全体的として、回答は、回答番号(1)～(5)の(3)を中心に比較的広範囲にばらついていると思われる。これは、今年度は昨年度までと異なり、回答者の人数が顕著に増加したことが要因の一つと考えられる。回答者数は受講生の約3分の1であった。今年度は授業内容を見直し、各項目に割く時間配分も変更している。授業の難易度をみると、やや難しい傾向となっていたが、内容の理解度では、「あまり理解できなかった」と「まあ理解できた」の2つに回答が多かった。記述式回答の一例として、プロジェクターを使う授業でレジュメがなく、内容が聞き飛ばされてしまったことが書かれていた。そこで、授業で準備する配布資料の工夫を考えることで、より理解度を向上させることが可能ではないかと思われる。それと同時に、何らかの形で、受講生の理解度を確認するような方法を考えていきたい。

<b>渥美 公秀</b>
<b>ボランティアの集団力学・ボランティアの集団力学特講</b>
予期した通りの結果であり、特に問題ありません。

<b>臼井 伸之介</b>
<b>リスク心理学・安全行動学特講Ⅱ</b>
成績を出した人72名中（登録者83名）、アンケート回答者が22名（30.6%）と低率であった。授業終盤にアンケート入力を繰り返し依頼したにも関わらずこの低率は、現行回答方式の限界を感じざるを得ない。ただ回答者22名のうち20名は80%以上出席とあるので、回答結果は真摯に受けとめたい。「授業内容の難易度は適切」「授業内容は理解できた」がそれぞれ95%、82%という結果はよかったと思うが、特講の回答者（1名のみ）は「やや易しい」という回答だったので、合併授業とすることに問題があるかもしれない。「授業の準備状況は良く出来ていた」は73%、「授業は求めるものにあっていた」は77%、「授業は全体として良かった」は77%とまずまずの結果であったが、いずれの項目も4名（18%）が「普通」「どちらとも言えない」と回答しているので、そのような中間評価の回答を減らすようにさらに授業内容を工夫したい。

<b>老松 克博</b>
<b>臨床心理学特講Ⅱ</b>
今回の講義では、想像に関する技法の使い方よりも、想像そのものが秘めている臨床的な力を理解してもらうことに主眼を置きましたが、いずれ、より実践的な内容も扱いたいと思っています。臨床心理は、人それぞれ、オリエンテーションや興味関心がさまざま、すべての人のニーズを満たすことは至難の業ですが、皆さんの意見を参考にして努力します。

**荻阪 満里子**

**認知脳心理学**

教室が狭かったということもあり、スライドを適切に移す時間が不足していたようで、この点の改善が必要だと思う。

**小野田 正利**

**学校経営学特講**

受講者は9名だったが、アンケート回答者が2名というのは残念だった。しかし、好評価であることは間違いないので、その点ではよかったと思う。

**金澤 忠博**

**比較発達行動学**

興味を持ってもらえる内容を心がけたので、殆どの方が興味を持って面白いと感じてくれていることがわかりその点ではよかったと思っている。話し方は聞き取りやすいようにと心がけたのだが、内容を詰め込みすぎたことも有り早口になってしまい結果として伝わりにくかったかもしれない。改善の必要性を感じる。コメントにも書いたが、毎回書いてもらった感想や質問に鋭いものや面白いものが多く、質問への回答の準備などを通じて勉強になった。受講者との interactive な授業にもなるので今後も続けたい。今後も最新の知見を取り入れ受講者の思考を刺激できるような授業を心がけたいと思う。

**河森 正人**

**動態地域論Ⅱ・動態地域論特講Ⅱ**

内容的には比較的よかったという意見が多かった。しかし、話し方に工夫が必要であるということがわかったので、今後改めていきたい。

**吉川 徹**

**経験社会学・経験社会学特講**

評価を真摯に受け止めて改善していきます。

**木村 涼子**

**生涯教育学**

毎回のフィードバックを大切にしながらすすめました。受講生の質問に対応するために、当初の授業内容のための資料にプラスアルファの資料を用意し、問題関心の共有と豊富な情報提供を目指しましたが、配布資料が多かったこと（印刷物）への不満も出ていましたので、そのあたりは来年度工夫したいと思います。学部生受講生に関しては、授業内容に関心をもって熱心に参加される方と、そうでない方はかなりはっきり分かれていたような印象です。関心をあまり持てない受講生がいると感じた時に、もっと考えを引き出すような機会をつくり、授業内容を見直すことが必要だったかと思っています。

**生涯教育学特講**

毎回のフィードバックを大切にしながらすすめました。大学院生の方々はほとんどの方が熱心に参加し、主体的に授業内容に関わってくださった方もおられましたから、私自身授業をすすめやすかったと思います。ただ、せっかくの院生の方々の主体性をもっと活かせる授業プランにできればよかったと、来年度参考にしたいと思います。

**熊倉 博雄****生物人類学**

スライドの転換が早いと思われるかもしれませんが、同一スライドを複数回掲示しているので、そう思われるのかと思います。データを見てもらうことが肝要なので、「まとめ」を提示して「データ」を提示し、再び「まとめ」を再掲示するというやり方です。この点は1回目の講義で説明しているつもりでした。板書の時間をとるように気をつけようと思います。

**生物人類学特講Ⅱ**

修士の講義科目ですが、受講生のスキルを向上させることを第一義にしています。具体的には、実習要素を中心にしているので、「講義」という意味では満足感が少ないかもしれません。

**近藤 博之****教育動態学**

約3分の1の人の回答ですが、今回も評価がだいぶばらつきました。多様な関心をもつ受講生全員に平均以上の評価をしてもらうのを目標にしていますが、残念ながら一度も達成したことがありません。依然として、色々なことを反省しながら取り組む必要があるようです。

**教育動態学特講**

テキスト原稿を配布するなどして、そのつど確認できるように授業を進めたので、資料に対する評価は妥当なものだと思います。ただ、難易度が高いというのはやや意外でした。毎年、話し方に対する問題点を指摘されるので、そちらにもできるだけ注意を向けていきたいと思っています。

**斉藤 弥生****比較福祉論Ⅰ**

授業の予習や復習をしている学生が少ないようなので、来年度は少し工夫したい。

**比較福祉論特講Ⅰ**

学部との合併授業なので、大学院生には内容が易しすぎる心配があるが、この点については配慮していきたい。

**佐々木 淳****臨床心理学Ⅰ**

アンケート結果から、一定の教育的な成果があったものと考えられる。板書の仕方については念頭におきたい。今後も授業内容と方法の充実に努めたい。

<b>佐藤 眞一</b>
<b>心理学測定(基礎科目)</b>
5名の教員によるオムニバス形式の実習および講義による科目である。アンケート結果はおおむね良好だが、3コマ連続の授業のため教員も学生も疲弊することが多いようである。来年度から1コマの授業(行動学概論)と1コマの方法論(行動学研究法)に変更する予定である。
<b>臨床死生学・老年行動学 臨床死生学・老年行動学特講 II</b>
研究分野の3名の教員による講義科目である。回答者が少ないが、評価は良好であった。ただし、予習することがほとんど無いので、授業前の予習指示などについて検討の余地があると思われる。

<b>澤村 信英</b>
<b>国際協力学II・国際協力学特講II</b>
大学院生と学部生のアンケート結果には有意な差がある。大学院生は講師の研究関心に近いので肯定的な評価であるが、学部生はそうではない。授業を英語で行うので、余計にそのような傾向が顕著になるのかもしれない。そのようなあまり関心のない学部生にどのような対応をすべきかは、難しいことでもある。また、事前学習を促進するための課題等を出しても、多くの受講生は予習をすることがない。それを改善するためには、授業の組み立てにおいて工夫すべき点も少なくないが、学生側の自覚を促すことも必要かもしれない。

<b>篠原 一光</b>
<b>適応認知行動学・適応認知行動学特講I</b>
アンケート結果から特に大きな問題はなかったと判断するが、若干「難しすぎる」との評価があることが気になった。内容的として、かなり難しい内容を扱っているとは考えにくいので、講義の構成をよりわかりやすくする必要があると感じた。配布資料や提示用資料の作り方を検討し、より分かりやすくなるよう努めたい。また、教室の構造により資料提示が見にくいとの評価があるが、来年度も同じ教室を使用する予定なので、前方に投影するタイプの資料の使用頻度を下げ、手元資料での説明を重視するよう修正したいと思う。

<b>志村 剛</b>
<b>行動生理学・行動生理学特講II</b>
授業は概ねシラバス通りに実施し、神経科学の基礎的知見を理解するという、所期の目的を達成できたと考える。受講者の半数以下の回答ではあったが、授業内容への関心や、授業自体の評価も高かったようで、担当者としての責務は果たせたと思う。受講者数と教室の設備とのバランスもよく、肉声で十分コミュニケーション可能だと判断していたが、聞き取りにくい学生もいたようで、今後マイクの使用なども考慮したい。さらに、双方向型の授業を目指して改善する必要があると感じている。いずれにせよ、学生諸君の授業態度も上々で、受講者にとっても教員にとっても満足できる内容になったと思う。

<b>高田 一宏</b>
<b>教育文化学</b>
受講者数の割にアンケートの回答者が少ない。回答してくれた人はお高い評価をしてくれているが、受講生の学習意欲にばらつきがあることも事実で、予習・復習の手引きを工夫したい。
<b>コミュニティ教育学</b>
3年後期の配当であるためか、例年、後半に出席者が減少する傾向があるが、出席者の評価はおおむね良好である。

<b>辻 大介</b>
<b>コミュニケーション社会学</b>
今年度も概ね高評価でした。自由記述欄で「これまでの授業で3本の指に入る」とか「一番好きな授業」とか「90分間のめり込むように楽しんで受講できた」とか書いていただいたのは、ありがたい限りです。ただ、映像資料を多用する講義なのに、新しい機材のためか画面によくちらつきが入ったので申し訳なく感じています。この点は事務的に点検修理を依頼してあります（教室自体は使いやすかったので次年度も継続予定）。また、学部生・院生の質問紙調査に2回協力してもらいましたが（受講生のみなさん、ありがとうございました）、おかげで少し授業内容を割愛した部分が出てしまったのが反省点です。次年度からは極力質問紙調査の協力は行わず、せめて1回限りにします。

<b>友枝 敏雄</b>
<b>社会学説史・社会学説史特講</b>
（学部生に関して）回答者数が少ないので、何とも言いがたい面がありますが、「講義内容が少し難しかった」ということですので、当初の目標通りかと思えます。私の学生時代の経験から、講義は少し難しいぐらいがよいと考えています。なぜなら、学生からすると「勉強しないと大変なことになる」と思って勉強するからです。板書の字が見えにくいというのは、学生さんにはいつも、「近眼で見えにくい人は前に座って下さい」と言っているのですが……学生時代、私自身、近眼でしたので、前に座るようにしていました。今後工夫しますが、黒板の大きさもあり、なかなか難しいですね。今回も、配付資料を配って板書の量を減らしたりしましたが、完全にうまくいく方法はないような気がします。歯切れの悪い回答ですが、記しておきます。（大学院生に関して）それなりに、好評だったようですので、特別に記すことはありません。

<b>中川 敏</b>
<b>人類学理論・人類学理論特講</b>
板書をもうすこしきれいにする。

<b>中澤 涉</b>
<b>教育と社会</b>
全体としては悪くない評価だと思ったが、勉強している学生が少ない。少し学習のインセンティブを増すような授業になるような工夫ができないかと考えている。

<b>中道 正之</b>
<b>霊長類心理学・比較行動学特講 II</b>
出席者が毎回 35 名前後で、アンケートの回答者が 16 名であったというのは、残念ではあり、もっとアンケートに回答してもらえるほどの魅力的な授業が必要であるとも思いました。積極的に挙手してもらって授業になるよう努力したが、かなりの学生の人たちが意見を述べてくれたのは、大変感謝しています。霊長類の母子だけに絞って授業を進めたが、もう少し広くいろいろな霊長類の行動について知りたいという意見があり、今後の内容を見直したい。

<b>中村 安秀</b>
<b>医療通訳とコミュニティ</b>
8 名からの回答をいただきました。全員が難易度が適切と答え、十分に役立ったという回答が多かったです。「このクオリティーの授業を副専攻として、授業料の範囲内で受講できたのは、ありえないくらい素晴らしいことだと思った」というご意見をいただき、本当にうれしかったです。今後もこの講義の質を落とさないように、継続していきたいと思えます。また、12 時の終了時間が過ぎて学内バスに乗り遅れたとのこと、また、机の上や床など教室がいつも汚れていたとのこと、今後の改善に努めたいと思えます。

<b>中山 康雄</b>
<b>言語・情報論</b>
授業内容が難しいという声がある程度あった。今後の参考にしたい。
<b>言語・情報論特講</b>
今回のアンケートでは、だいたいこの点で満足している学生が多かったので、特に問題はなかったように思う。

<b>西森 年寿</b>
<b>教育工学 I・教育工学特講 II</b>
授業についてはある程度満足してもらえたようです。引き続き、内容の向上に努めたいと思えます。「板書・プロジェクタの文字」については、教室プロジェクタは今年度輝度が向上したので、もしかすると、テレビ会議の際のことなどを指摘してくれているのかもしれませんが。事前の準備を十分したいと思います。「成績評価の基準」については、授業中に一定の説明をしていると思えますが、疑問があれば質問を受け付けたいと思えます。「講義をもう少し増やして」という要望については、間接的ですが、提供する資料などの情報量をあげるなどの対策が必要かなと感じました。回答ありがとうございます。

<b>野坂 祐子</b>
<b>教育心理学特講</b>
受講者が熱心に討議に参加して、よかった。

<b>福岡 まどか</b>
<b>実践的文化交流Ⅱ</b>
この授業では講義形式ではなく、ワークショップ形式で楽器演奏やダンスなどの実技を行いました。今回は、外部講師による特別ワークショップも行われました。最終発表会の演奏もいい演奏が多かったです。受講者の皆さんからの感想は授業の中でもききましたが、実技の内容なども概ね好評だったと思います。今後の授業もこのやり方で少しずつ内容を変えながら取り組んでいきたいと思います。
<b>藤岡 淳子</b>
<b>教育心理学Ⅰ</b>
回答ありがとうございます。参考にします。
<b>藤川 信夫</b>
<b>教育人間学Ⅰ・教育人間学特講Ⅱ</b>
概ね目標を達成できたのではないかと思います。ただし、今後は、大学院と学部の合併授業である特性を活かして、大学院生と学部生の共同学習的場面をより多く設定してみたいと思う。
<b>牟田 和恵</b>
<b>家族社会学・家族社会学特講</b>
回答者は少ないが、参考になった。自学の機会を増やす目的で、今年度は事前の学習を促す小課題を複数回課した。その効果で多少は学習時間が長くなったのではないかと考えている。
<b>村上 靖彦</b>
<b>現代思想論・現代思想論特講</b>
概ね好評だったので良かったです。来年度もしっかり準備して、臨みたいと思います。
<b>森川 和則</b>
<b>基礎心理学・基礎心理学特講Ⅱ</b>
回答者 20 名中、1 名だけほとんど授業に出なかったのに（問 1 で出席率 20%以下）機械的に最低評価をしている者がいる。授業に出ないで授業評価をすることはアンケートを愚弄している。この学生にはアンケートに答える資格がないので、この学生は集計から除外するべきである。この学生は「成績評価の基準について十分説明がなかった」と答えているが、全く事実と反する。私は成績評価の基準をシラバスや授業で明確に説明した。この不真面目な学生一人のためにアンケートが台無しになっている。この 1 名を除くと、問 13 において回答者 19 名中 15 名は「非常に良かった」、4 名は「まあ良かった」であり、平均値は 4.79 であり、学生の評価は非常に良いと言える。教室が狭かったという意見があるが、キャパ約 70 名の教室で出席者 50～60 名だったので、特に狭すぎることはないと思う。



**山本 ベバリー・アン**

**Sexuality and Education・セクシュアリティと教育特講**

This class was very small with about half the students auditing. We had some really good discussions and the final presentations and portfolio assignments were very interesting for all of us as we learned about aspects of sexuality education that were important in other countries. It was disappointing that a couple of students who had come to all classes and participated actively did not hand in their final assignments.